

学びを「再発明」する：協働がもたらす教育の未来



急激に変化する社会で求められる、真の「使えるスキル」とは何か？

本資料では、知識の習得を超え、複雑な問題を解決し、新たな価値を創造する力を育む「協働的な学び」のデザインについて解説します。

なぜ今、一人だけの学びでは不十分なのか



個別学習の限界

上記のような力は、「一人だけの学びでは磨くことが難しい」。



現代社会の要請

様々な人と協調的に関わりながら複雑な問題を解決する力。
新しいアイデアを創造していく力。

協働学習は、これからの時代を生き抜くための力を育むための鍵となります。

教育の未来を示す、国からの方針

“

中央教育審議会（平成24年8月）答申より

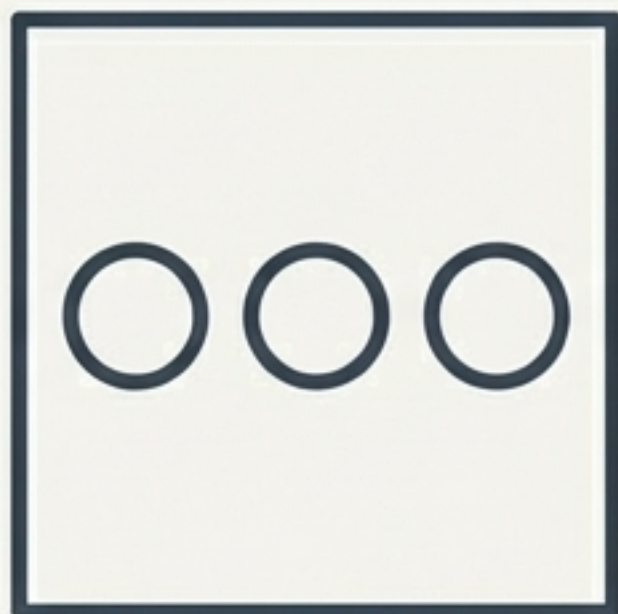
21世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の育成等を重視する必要がある。これらは、様々な言語活動や協働的な学習活動等を通じて効果的に育まれることに留意する必要がある。

”

キーマッセージ：知識の習得だけでなく、思考力や表現力、人間関係構築力といった複合的な能力の育成が求められています。

「協働」の本質：単なるグループワークとの違い

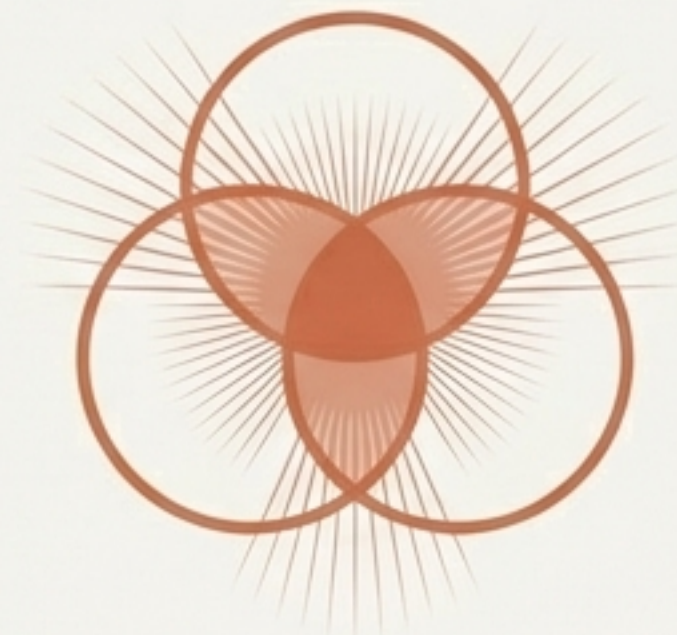
誤解されがちなイメージ



誤解されがちなイメージ

単に「問題を一緒に解く」ことではない。

協働学習の真の定義



Point 1: 必要性 - 「どうしても他人がいないと起きない活動」を通じて行われる。

Point 2: 質の向上 - 「他人がいると自分一人で解くより答えの質が上がる」経験を繰り返す。

ゴール：状況に応じて柔軟に解決できる「使えるスキル」の育成。

学びが生まれるメカニズム：知識の社会的構成主義

基本理論：

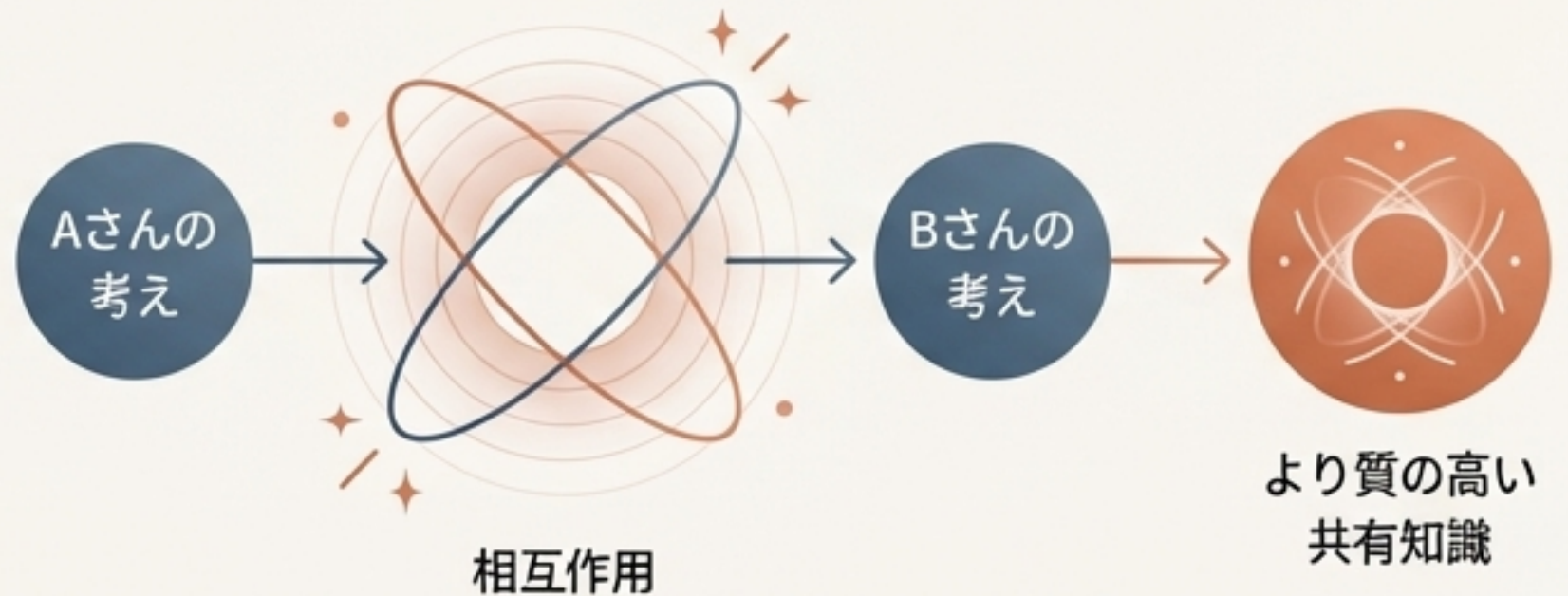
人は社会的な関わりの中で学び、柔軟な知識を育てていく。（知識の社会的構成主義モデル）

プロセス：

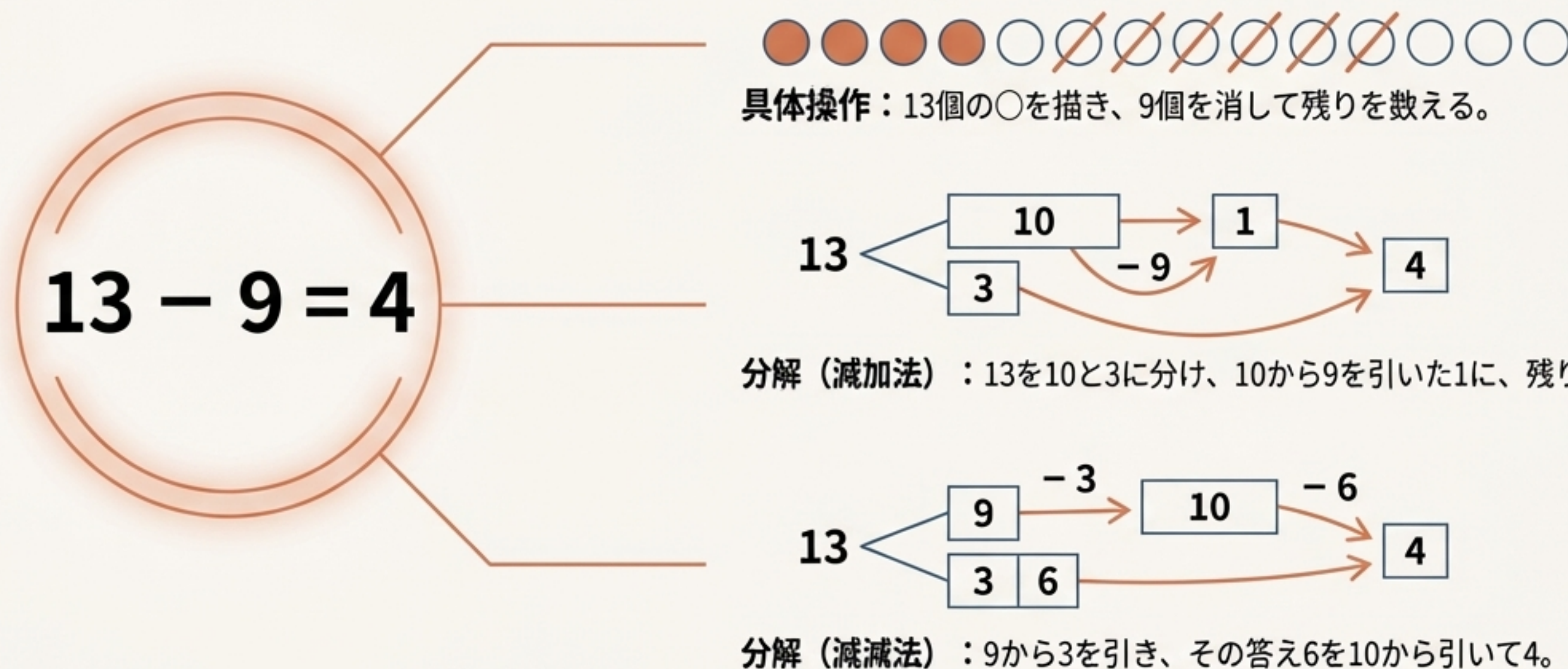
1. 他者との相互作用を通して、自分の考えを表現する。（「自分はこう考えた」）
2. 考えの差を比べるうちに、自分の考えを再検討する。
3. 知識同士を関係づけ、「統合してみよう」という次の学びへの動機が生まれる。

効果：

このような能動的な学習で得た知識は、時間が経っても定着しやすい。



答えは一つでも、道のりは多様。思考の多様性を力に変える



重要な視点：

「こういった一人ひとりの多様性を認める事が一人一人の学習を保障していくことにつながる。」

協働学習は、この「多様性」を活かすための最適な環境です。

協働をデザインする：ワークショップ手法のツールキット

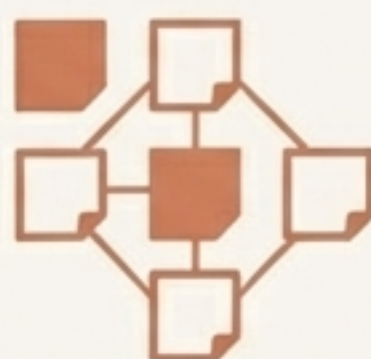
創造的な問題解決を行うトレーニング手法として広く利用されるワークショップの代表的な手法を紹介します。



アイスブレイク



ブレインストーミング



KJ法



ポスターセッション



プランニング

各手法の目的と活用法



アイスブレイク

学習活動が円滑に行われるよう、児童の緊張を事前にほぐす活動全般。



ブレインストーミング

質より量を重視し、独創的で多様なアイデアを短時間で引き出す。批判はしない。



KJ法

情報を項目ごとに分類・構造化し、全体像を視覚的に把握しやすくする。



ポスターセッション

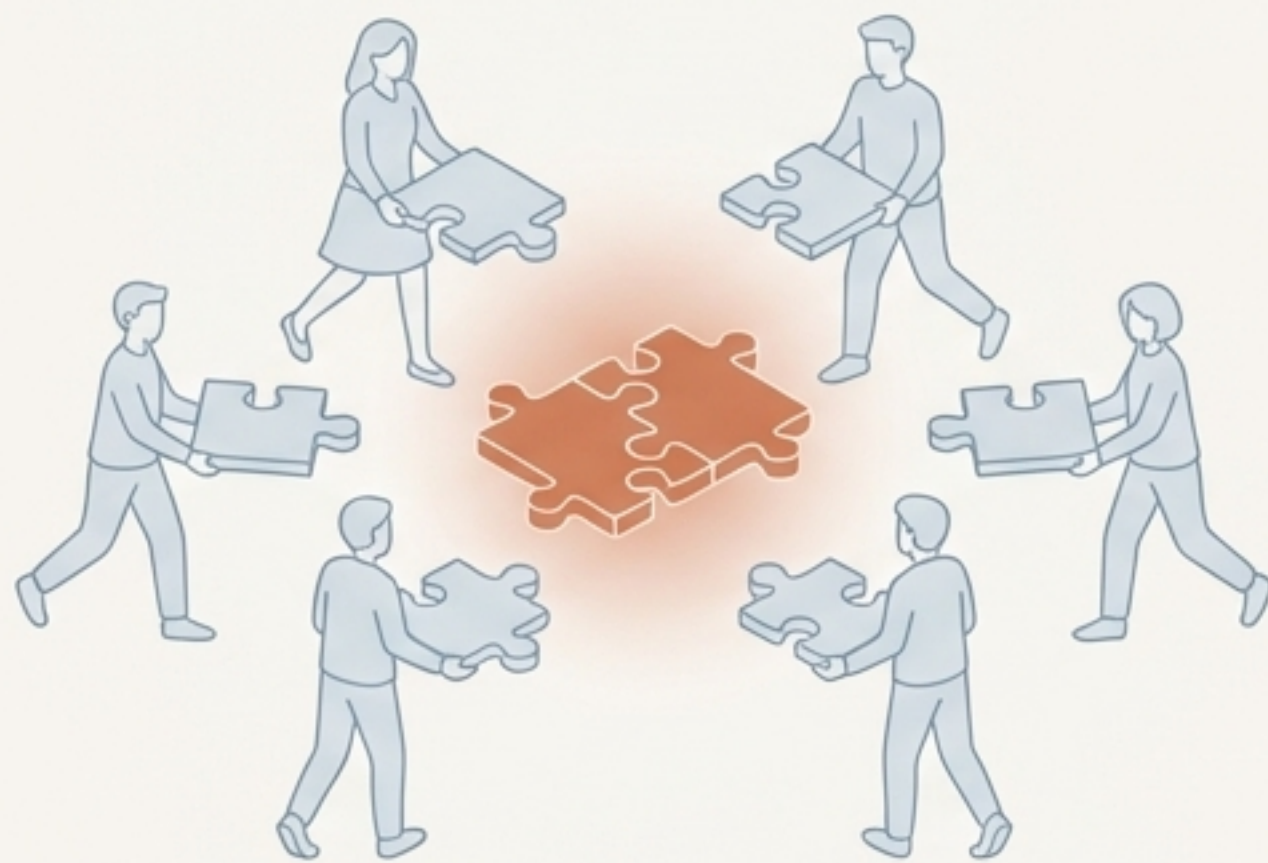
グループの学習成果をポスターで発表。全員が発表者かつ視聴者となり、主体的な学びを促す。



プランニング

学んだことを基に具体的な活動計画（アクションプラン）を立て、行動への意欲を高める。

能動的な学びを最大化する「知識構成型ジグソー法」



コンセプト：

これまで教員が全て説明していた知識や原理を学習者に手渡し、学習者自身がそれらを統合して答えを出す学習活動。

学習者がもつ「外界に働きかけながら学ぼうとする力」を最大限に活かすデザイン。

学習の流れ：

自分一人の考えから出発し、複数の資料を基に他者と説明し合い、それらを統合して考えをまとめる。

ジグソー法の全体像：3つの活動フェーズ

フェーズ1: エキスパート活動



同じ資料を担当するメンバーが集まり、専門知識を深める。

フェーズ2: ジグソー活動



異なる資料を学んだメンバーで新しいグループを作り、知識を持ち寄って課題を解く。

フェーズ3: クロストーク



グループの結論を全体で共有し、自分の考えをさらに発展させる。

ジグソー法の実践：各フェーズの進め方

①

エキスパート活動

目的: 問いに対する答えの「部品」となる特定の視点を、資料を基にグループで深く探求する。

②

ジグソー活動

目的: 各エキスパートが学習したことを持ち寄り、知識をパズルのように組み合わせて新しい課題を解く。

③

クロストーク

目的: 各グループの答えを全体で交換し合う。多様な答えから、一人ひとりが最も納得のいく表現や考え方を見つけ、自分の知識をより適応範囲の広い「活用できる知識」へと高める。

教室を越える学び：遠隔協働学習の可能性



インターネットなどのテクノロジーを利用し、遠隔地のメンバーと共にプロジェクトに取り組む学習環境。

メリット:

- **可視化:** 学習過程を共有し、異なる考え方や知識の比較が容易になる。
- **実践:** 教室の外に知識を持ち出し、実践的に積み上げる場となる。

多くの実践事例と成果が上がっており、協働学習の新たなフロンティアとなっています。

実践のための強力なパートナー：CoREFの活用

CoREF



CoREFとは？

東京大学に設立された「大学発教育支援コンソーシアム推進機構」。大学と自治体・教育委員会などが連携し、小中高等学校の学びの質を高めることを目指す実践研究の拠点。

提供されるリソース：

- 協働学習の取り組みや考え方の紹介。
- 実際に授業で利用できる教材を教科別に公開。
- 知識構成型ジグソー法を実践した指導案も多数掲載。

アクション：

指導案作成の参考に、またそのまま授業で活用することも可能です。ぜひご活用ください。

目指すのは、答えを知っていることではなく、答えを創り出せる力

協働学習のデザインは、単なる授業手法の選択ではありません。
それは、学習者一人ひとりが持つ多様な思考を尊重し、他者との関わりの中で思考を深め、
柔軟に問題を解決する「使えるスキル」を育成するプロセスそのものです。

この学びの経験こそが、予測困難な未来を生き抜くための最も確かな力となります。

